

UGSAS-GU NEWSLETTER

岐阜大学大学院連合農学研究科

2017年 1月～12月

第6回 天然物化学 シンポジウム (3月2・3日)

Natural Products Chemistry International Symposium

本研究科において『天然物化学国際シンポジウム』を開催しました。南部アジア地域における農学系博士教育・連携コンソーシアム(IC-GU12*1 高度専門職業人養成プログラム)活動の一環として企画し、天然物化学及び生命科学分野の研究ネットワークの形成と社会貢献の向上を目指す国際連携活動が実施されました。

最初に、千家正昭研究科長の挨拶、鈴木文昭岐阜大学理事(国際・広報担当)の歓迎メッセージの後、本シンポジウムを主導してきた光永徹教授が開催に至る背景と目的について説明を行いました。その後、外国人研究者10名(インドネシア、タイ、ベトナム、バングラデシュ、カナダの大学教員)及び九州大学の研究者1名、一丸ファルコス株式会社(教育コンソーシアム後援会インダストリー部会*2会員)の研究者1名がそれぞれ最新の研究成果について発表し、総勢45名ほどの聴講者との間で活発な意見交換が行われました。

2日目は、天然原料の研究開発を手がけている一丸ファルコス株式会社研究所(岐阜県本巣市)を訪問し、企業による最新研究の開発現場の視察と意見交換を行いました。この視察はグローバル化促進のための交流事業として成果を上げました。

*1 IC-GU12:岐阜大学の呼びかけで形成された「南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム」の略称

*2 東海地区の生命科学・環境科学関連企業との連携によりアジア地域で活躍する高度専門職業人育成支援を目指す。



第7回 土壌管理 国際シンポジウム (8月28・29日)

International Symposium on Soil Management for Sustainable Agriculture

本研究科では「持続可能な農業のための土壌管理」をテーマにシンポジウムを開催し、外国人研究者16名(中国、インドネシア、ベトナム)の研究発表及び4名の基調講演を行いました。最初に、千家正昭研究科長の挨拶、鈴木文昭岐阜大学理事(国際・広報担当)の歓迎メッセージの後、岡山大学等の研究者4名による基調講演と外国人研究者16名による土壌管理における課題と最新の研究成果を発表し、質疑応答を含め活発な意見交換により、より深い議論が繰り返されました。また、この様子は静岡大学及びスプラ・マレット大学(インドネシア)にテレビ会議で配信されました。

2日目には、本研究科学生、水環境リーダー育成プログラムの学生、修士課程学生、計25名のポスターセッションを行い、研究成果を発表しました。このセッションは、優先配置特別プログラムにより受入れている国費外国人留学生の教育・研究指導進捗状況の把握も目的として行われました。審査の結果、優秀発表学生4名に対し千家研究科長からポスター賞を授与しました。シンポジウムには59名もの研究者らが参加しました。

最終日には、海外の研究者17名及び大学の教職員8名がStudy Tourとして、岐阜県揖斐川町にある谷汲池の貯水施設(協力者:揖斐農林事務所)と徳山ダム施設(協力者:水資源機構)の視察を行い、周辺地域の治水事業の現状と自然環境保全の重要性について理解を深めることができました。



国際シンポジウムポスター賞受賞者

Tran Duy Quan: D2
Jobaida Akther: D2
Chen Siyu: D2 (水環境リーダー)
Tharangika Ranatunga: D3 (水環境リーダー)

NEWSLETTER(電子版)

第6号発行にあたり

岐阜大学大学院連合農学研究科(UGSAS-GU)修了生、在学生、教員の皆様、本研究科では昨年も新しい取り組みがたくさんありました。年一回であったシンポジウムとワークショップを二回行い、より専門的な研究発表と国内外の研究者が意見交換ができる場を多く設けなど、質の高い国際化を目指してきました。また、念願であったダブルディグリーもいよいよスタートし、新たに立ち上げたラボステーションを加えると海外の研究拠点は6か所となりました。第6号では、このような本研究科の活動を国内外で活躍する皆様に紹介します。本研究科のグローバル化に向けた展開に対して貴重なご意見がいただければ幸いです。

岐阜大学大学院連合農学研究科長



千家正昭

最新情報

- **11月** 本研究科修了生の Shirley C. Agrupis さんがフィリピンの Mariano Marcos State University 第7代学長に就任。
- **10月** Jobaida Akther さん(ダッカ大)が本研究科初のダブル PhD ディグリー プログラムをスタート。
- **2018年8月** 本研究科初の日本人学生がダブル PhD ディグリーに挑戦するため、チュラロンコン大学(タイ)に入学予定。
- **2018年3月7,8日** 植物病理に関する国際シンポジウム開催予定。

第4回 国際ワークショップ^①（インドネシア：アングラス大学 7月17・18日） Recent Postharvest Technology for Sustainable Agriculture and Food

アングラス大学の協力を得て、「持続的農業と食料供給のための最新ポストハーベスト技術研究」に関する国際ワークショップを開催しました。本企画は、大学のグローバル化と現地産業界との交流の推進を目的とし、平成26年度から本格的に実施しています。

初日のワークショップでは、千家正照研究科長の開会の挨拶後、エンドリー企画開発協働担当副学長の基調講演、平松研教授によるIC-GU12^{*1}活動紹介、中野浩平教授、加藤雅也教授、今泉鉄平助教3名の研究紹介、アングラス大学からフィリピン准教授外2名、モンクト王トンブリ工科大学等の教員3名による研究紹介、企業2社（種子生産販売業者・IT関連企業）の企業紹介を行いました。

総勢120名ほどの参加者は熱心に耳を傾け、意見交換も活発に行われました。また、情報交換や企業との研究交流が行われ、グローバル化促進のための交流の場となりました。

2日目は、同大学に設置した共同実験室の開所式を行い、本研究科が購入した分光光度計や遠心機の利用状況を確認しました。この共同実験室は、エンドリー准教授（岐阜大学客員准教授）の管理のもとIC-GU12加盟大学の教員や学生に開放され、ポストハーベスト工学関連の研究拠点となっています。



連合農学研究科 学位記授与式



3月13日、9月22日に、岐阜大学講堂にて学位記授与式が挙行されました。

平成29年3月～12月の学位記授与者数:

3月 16名（うち留学生8名）学長表彰1名
6月 1名（うち留学生1名）
9月 4名（うち留学生3名）
12月 1名（うち留学生1名）

連合農学研究科 入学式



4月14日、10月6日に、平成29年度入学式が挙行されました。平成29年度入学者数:

4月 11名（うち留学生6名）
10月 15名（うち留学生15名）

第5回 国際ワークショップ^②（ベトナム：チュイロイ大学 11月27・28日） Recent Progress in Agriculture and Water Management in Asia

チュイロイ大学（ベトナム）と平成27年度に部局間交流協定の締結を機に、同大学の協力を得て「農業と水管理の進展」をテーマとする国際ワークショップを開催しました。

初日の同大学会議室では、千家正照研究科長の開会の挨拶後、キム学長の式辞、タイ副学長（チュイロイ大学・本学客員准教授）及び飯田俊彰准教授（東京大学）による基調講演、平松研教授によるIC-GU12^{*1}活動紹介があり、本学から大西健夫准教授、西山竜朗准教授、乃田啓吾助教の3名、チュイロイ大学からゲンカオドン准教授外3名、スプラス・マレット大学、ランボン大学（インドネシア）及びダッカ大学（バングラデシュ）から3名（本研究科修了生）の計10名による研究紹介、インダストリー部会^{*2}から株式会社三祐コンサルタンツの千原英司氏の企業紹介、本研究科学生1名及び応用生物科学研究科学生1名による研究インターンシップの実施状況を報告しました。今回報告のあった研究インターンシップは、チュイロイ大学が受け入れ校となり、三祐コンサルタンツが研修機会の提供をするという、IC-GU12の連携が十分に活用された形になりました。

2日目は、タイ副学長の案内でハノイ市郊外のBHH^{*3}灌漑システムを視察し、ベトナムにおける灌漑の現状を理解するとともに、水資源の重要性を実感することができました。その後、ハノイ工科大学（IC-GU12加盟大学）を訪問し、クワンリーハー学部長、ゲンミンチュ副学部長、リンハートラン准教授（本学客員准教授）に対して千家正照研究科長及び中野浩平教授が本研究科の紹介を行いダブルPhDディグリープログラムの締結に向け再度打合せを行うことを両者が合意しました。



^{*3} BHH : Bac Hung Hai Irrigation System

IC-GU12 ニュース

- 10月14～26日 スプラス・マレット大学（インドネシア）と共催で International Conference on Climate Change (ICCC) を開催。
- 11月7～9日 スプラス・マレット大学副学長らが岐阜大学を表敬訪問。

第8回 連合農学研究科セミナー ～ひらめき☆ときめき研究インターンシップ～（5月24日）

参加者42名（学生28名、教職員等8名、企業6名）の下、4名の学生がIC-GU12加盟大学等への海外研究インターンシップの成果を報告しました。現地の環境や研修先での教員とのコミュニケーションの図る一方、普段研究室では経験できない貴重な体験を数多く語り、今後の自分の研究にどう役立てるかを報告しました。また、インダストリー部会参加企業5社の代表者から企業紹介を受け、講演後、企業の代表者と学生との懇談では、参加した学生達から企業が求める学生像等の質問もあり、実りある交流となりました。

